【事業概要】

１．名称　　：薬師堂　木造　薬師如来坐像

２．員数　　：１躯

３．修理期間：２０２０年５月１日～２０２０年１１月１日

４．所在地　：－

５．連絡先　：－

６．施工者　：古仏修復工房

【法量】 ※修理完了後

・薬師如来坐像

像本体	像高	31.7cm	最大幅	26.9cm	最大奥	19.3cm
	髪際高	28.3cm	最大高	41.3cm		
光背	最大高	43.7cm	最大幅	26.1cm	最大奥	4.0cm
台座	最大高	26.0cm	最大幅	31.5cm	最大奥	30.9cm
全体	総高	66.3cm	最大幅	31.5cm	最大奥	30.9cm

【品質構造】

薬師如来坐像

木造（桧材）、寄木造り。玉眼。耳朶環状。白毫は表さない。肉身部は漆箔、衣は漆仕上げ。ただし、現状はほぼ剥落している。

主要体幹部は一材、内刳りを施す。頭部は挿し首とする。頭部は前後に二か所を割り矧ぐ。内刳りを施し、玉眼（亡失）を嵌入する。両肩材はそれぞれ一材から彫り出す。両手先（亡失）は別材。膝前材は主要一材だが、左膝付近に小材を接合する。右肩内刳り内部に墨書がある。

【墨書】

・右肩材　内刳り内部

十月日敬白

寛永十三ひのへ子年　佛師かまくら住たかやす　手師分

かうさき村岩瀬九兵衛画作

六十七才之年

薬師如来作たて申候　願主用長　堂本尊共ニ

中くうかいへん末代ニ■御けん之御形如此しふく可然候

※寛永十三年（丙子）１６３６年

・左肩材　内刳り内部

寛

【所見】

胎内の右肩内刳り内部に墨書があり、寛永十三年（１６３６年）造立の銘が記される。仏師は「かまくら住たかやす」。仕上げは「かうさき村岩瀬九兵衛」。願主は「用長」。

願主の「用長」については詳細不明。僧侶の可能性もあるが、在家の信徒であったかもしれない。この墨書は願主「用長」が主体となっているようであり、「用長」が 67 歳の時に堂宇と薬師如来像を造立したとの内容である。

「かまくら住たかやす」については「かまくら」は鎌倉だと思われる。鎌倉に住む仏師「たかやす」が制作したと読めるが、鎌倉を本拠地としていた仏師としては、作風がかなり独特であり、主流から外れたものとなっている。また「たかやす」、「高安」は茨城、千葉に多い苗字であり、鎌倉で修業をした仏師という意味で書いた可能性もある。「かうさき村岩瀬九兵衛」については、「かうさき村」は現在の千葉県神埼町のことか。以上のことから、この像は茨城県内か千葉県内の在地の仏師の手によるものと考えて良いかと思われる。

作風としては、丁寧に彫ってあるものの、かなり異質な造形感覚である。こうした像にはあまり光が当たらないが、年代がはっきりわかる近隣の在地の仏師の作として興味深い像と考えられる。

・補修の痕跡

本体、光背共に彩色と漆箔の貼り直しを受けている。台座についてはどこまでが制作当初のものなのか不明。また、前面の蓮弁などは葺き直しが行われているが、蓮弁自体が後補の可能性もある。

【修理基本方針】

・本体、亡失箇所については復元する。
・新たな補修箇所については色合わせを行い、全体の統一をはかる。
・墨書は記録する。

【損傷状況】

本体は各部材の接合が外れ半壊状態。両玉眼や両手先などが亡失しているが、主要な部材は現存している。彩色の塗り直しが行われているが、ほぼ剥落。

光背は、半分ほどが残っている。彩色と漆箔の塗り直しが行われているが、ほぼ剥落。

台座は、蓮肉及び蓮弁の一部、反花のみが残る。蓮肉と背面の蓮弁のみが桐材。正面の蓮弁など後補の可能性もあるが不明。

・本体

① 欠失、亡失個所、割れについて

・亡失個所がある。（両玉眼。玉眼押さえ。両手先。持物※薬壺）

・小欠失個所がある。（右まぶた。右ほお。唇。垂下する衣※両内側の衣。垂下する衣※左背面。膝前材衣のひだ※複数箇所。）
・削り直されている箇所がある。（膝前材の左側接合部付近）
・左こめかみ付近が割れ、ひびが入っている。

② 部材の接合について
・全体に部材の接合がゆるんでいる。半壊状態。
・頭部の接合については、かなり隙間があいている。

③ 後補個所について
・彩色の塗り直しが行われている。
・接合に麦漆が使用されている。
・膝前材衣のひだの複数個所で、漆製のパテのようなもので欠失個所を補っている。

・光背
① 欠失、亡失個所について
・周縁部（上部）が亡失。
・周縁部（右側の大部分）及び周縁部（左側の上部）、その他小材が欠失。

② 部材の接合について
・全体に部材の接合がゆるんでいる。半壊状態。
・台座との接合に鉄釘が使用され、錆びている。
・台座との接合位置の調整に小材が挟まれている。

③ 後補個所について
・頭光及び身光の彩色の塗り直しが行われている。
・周縁部の漆箔の貼り直しが行われている。

・台座
① 欠失、亡失個所について
・前面の蓮弁の大部分が亡失。（12 枚のみ現存）
※四段葺き。上から 7 枚、8 枚、7 枚、8 枚の魚鱗葺きだったと考えられる。
・背面の蓮弁が 2 枚亡失。
・敷茄子が亡失。
・框部分が亡失。

② 部材の接合について

・全体に部材の接合がゆるんでいる。半壊状態。

・蓮肉の接合部などに大きく隙間があく。

・蓮肉部の心棒の穴が中心に開いておらず、台座の各段の位置がずれる。

③ 後補個所について

・前面の蓮弁については後補の可能性もあるが不明。

・光背との接合部付近に補修材を接合している。

【修理仕様】

・本体

① 欠失、亡失個所、割れについて

・亡失個所は新造した。（両玉眼。玉眼押さえ。両手先。持物※薬壺）

両玉眼はガラスにて新造した。目は新たに描いた。

薬壺については手先と共彫りとした。

・小欠失個所は以下のように処置した。

右まぶたや垂下する衣（両内側の衣）、垂下する衣（左背面）、膝前材のひだの一部などは桧材で補った。

右ほお、唇、膝前材のひだの一部など細かい欠失個所はエポキシ系パテで補った。

・削り直された箇所については桧材で補った。（膝前材の左側接合部付近）

・左こめかみ付近のひびは、モデリングペーストで埋めた。

② 部材の接合について

・部材の接合については以下のように処置した。

部材は解体し、再接合した。接合にはエポキシ系接着剤を使用した。

ただし、両側面材については、麦漆で強固に接合されており、外すことができなかったためそのままとした。

・頭部の隙間については、薄板を接合し隙間を埋めた。

③ 後補個所について

・彩色の塗り直しは除去した。

・はみ出した麦漆はできるだけ除去した。

・膝前材、衣の漆製のパテ状のものは削り取り形を整えた。へこみはエポキシ系パテで補った。

・光背

① 欠失、亡失個所について

・周縁部（上部）は桧材で新造した。

・周縁部（右側の大部分）及び周縁部（左側の上部）、小欠失部は桧材で新造した。

② 部材の接合について

・部材は解体し、再接合した。接合にはエポキシ系接着剤を使用した。使用されていた竹釘は再利用した。

・光背接合部の鉄釘は除去した。また、他に複数あけられていた穴は埋めた。
光背接合の際には、エポキシ系接着剤と銅釘にて接合した。

・台座との接合位置の調整に挟まれていた小材は撤去した。

③ 後補個所について

・彩色の塗り直しは除去した。

・漆箔の塗り直しは除去した。

・台座

① 欠失、亡失個所について

・足らない蓮弁は新造した。（正面の蓮弁 18 枚※桧材）
※四段葺き。上から 7 枚、8 枚、7 枚、8 枚の魚鱗葺きで葺き直した。

・足らない蓮弁は新造した。（背面の蓮弁２枚※桐材）

・敷茄子は桧材で新造した。

・框部分は桧材で新造した。

② 部材の接合について

・部材の接合については以下のように処置した。
部材は解体し、再接合した。接合にはエポキシ系接着剤を使用した。部分的に木釘を使用した。
蓮弁（正面）については、1～３段については銅釘で留めた。4 段目は真鍮釘で留めた。いずれも酢酸ビニール系接着剤を併用した。
蓮弁（背面）については、木釘で留めた。いずれも酢酸ビニール系接着剤を併用した。

・蓮肉の接合部（底面）などの隙間には桐材をはめた。

・蓮肉部、心棒の穴の位置関係で台座の各段の位置がずれる点については、
心棒と蓮肉部の接合位置を調整し、心棒が中心にくるように接合した。

③ 後補個所について

・前面の蓮弁については後補の可能性もあるが再利用した。基本的に修理前と同じ位置に接合したが、1枚のみまとまりが悪いために位置をずらした。

・光背との接合部付近の補修材を除去した。桐材で形を補った。

【写真】

①［修理完成写真］

全景（正面）

全景（背面）

全景（光背、台座）

本体（正面）

本体（背面）

本体（像底）

②［修理前写真］

全景（正面）

全景（背面）

全景（光背、台座）

本体（正面）

本体（背面）

本体（像底）

③［墨書］

右側面材　内刳り内部１

右側面材　内刳り内部２

右側面材　内刳り内部３

左側面材　内刳り内部

墨書の書かれている様子

④［解体写真］

本体１

本体２
台座
光背

⑤［新補個所］
全景（正面）
全景（背面）
全景（光背、台座）

頭部　内刳りの様子
本体（背面）
台座（底面）

【写真】

①［修理完成写真］

全景（正面）

全景（背面）

全景（光背、台座）

本体（正面）

本体（背面）

本体（像底）

②［修理前写真］

全景（正面）

全景（背面）

全景（光背、台座）

本体（正面）

本体（背面）

本体（像底）

③［墨書］

右側面材　内刳り内部１

右側面材　内刳り内部２

右側面材　内刳り内部３

左側面材　内刳り内部

墨書の書かれている様子

④［解体写真］

本体１

本体２

台座

光背

⑤［新補個所］

全景（正面）

全景（背面）

全景（光背、台座）

頭部　内刳りの様子

本体（背面）

台座（底面）